

聖マリア国際協力ニュース

第 9 0号

平成20年2月1日発行

国際緊急援助隊医療チーム導入研修に参加して

救急室 七田理恵子



模擬診療研修の一コマ

2007年12月14日～16日の3日間、国際緊急援助隊医療チーム導入研修に参加しました。現在、世界では地震、津波、台風、洪水、火山等の大規模な自然災害が頻繁に発生し、多くの命が犠牲になっています。なかでも開発途上国の多くは、経済・社会基盤が脆弱であるがために、災害発生時に十分な救援活動が行えないという実情があります。これを受け日本政府はJDR法という国際緊急援助隊派遣に関する法律のもとに人的・物的援助、資金援助を展開しています。

今回の研修は人的、物的援助の実施機関であるJICAの主催で人的援助の一環である救助チーム派遣者のための導入研修という位置付けです。

「言葉や文化、宗教の異なる被災国へ救援に行く」…容易なことではありません。見知らぬ者同士が集まり、過酷な環境下で寝食を共にするという極めてストレスフルな状況の中、建設的に援助隊としての任務を遂行するためには様々な基礎知識やルールを踏まえておく必要があります。チーム構成員には医師、看護師、薬剤師、医療調整員等それぞれのテクニカルスキル(専門的知識や技術)やコンセプト、コミュニケーション(戦略的思考能力)だけでなく、積極性・判断力・分析力・情報収集力・プレゼン能力・交渉力・親切さや協調性・謙虚さや明るさなどのヒューマンスキルが求められます。

研修では受講態度やシミュレーションを通してその適性を評価されます。

多くの医療機関や企業から医療従事者を始めとする初対面の多職種同士が、不慣れな場所へ集結し、寝食を共にしながら展開されるという研修形態は、緊急援助隊本来の目的にかかったものだと思います。

写真(JICA 提供)は模擬診療に関連した研修風景です。このシミュレーションでは災害現場のどこに、どのようにテントを設営するか、診療テント内の医療資機材や人員配置はどうするか、患者の流れはどうするか…など模型を使用し、制限時間内にグループで話し合い、発表するといったものです。

また実際の模擬診療で、講師の先生方が扮する多くの被災者が我先とテント内へ流れてくるのを、トリアージ(重症度・緊急度の選別)するという場面では、患者でこたえ返す年末年始の当院の光景(通称:聖マリア病院ER正月祭り)を彷彿させるものがあり、別の意味でもひどく疲れました。

写真の女性は設定上はイスラム教徒で、被災後より具合が悪く受診するためテントを訪れたが、男性が多いためテント内に入れないう…という訴えを聞きながら、どうしたものかと考えているところです。結局、同時に搬入された緊急度の高い患者さん数名を優先し、その間この女性をテント外に待た

せてしまい、まずかった点の一つとして後に指摘されたのでした…

改めて「言葉や文化、宗教の異なる被災国へ救援に行く」ことの難しさを実感しました。「日本の国旗を背負って行く以上は災害援助を「自己満足」「自分探し」のための手段にしてはいけない。質の高い援助のため自分はどういう任務を果たすべきかを念頭において活動して欲しい」と言ったある講師の言葉が印象的でした。

今回の研修で学んだ他職種が連携して同じゴールを目指す国際緊急援助という活動は、私達が毎日病院で実践している救急医療に留まらず、これからの現代医療のあり方そのものを象徴しているようにも感じました。

研修前後の緊張や疲労感がフツと和らぐような楽しい道中となったのは、一緒に過ごさせて頂きました救急診療科の廣瀬医師、精神科病棟勤務の野中看護師お二人のおかげだったと感謝いたします。



イスラム教徒女性への対応(模擬診療)

また2泊3日の研修中、私の欠員をカバーして頂いた大塚師長をはじめとするER・PCCのスタッフに心より感謝いたします。どうも、ありがとうございました。

韓国語教室を受講して

環境管理チーム 緒方美枝子・青井理絵

私たちは同じ資材部に勤務していますが、2人ともドラマの影響などで韓国に興味があり、昨年8月に韓国語の初級クラスがはじまったとき、誘い合って受講することにしました。

受講を開始して約半年になります。以前より受講している人からは「韓国語は日本語と文法が似ているので親しみやすい」ということを聞いていたのですが、パッチムや過去形など文法が難しいところもあります。また当たり前ですが、まず単語をたくさん覚えないことには喋ることは難しいと痛感しています。今はパソコンでハングル語を入力するなどして、自分でも工夫して勉強するようにしています。

一方、ハングルで自分の名前が書けたとき、また韓国語のニュースを聴いて、ちょっとだけ意味が解ったときなどはとても嬉しく思いました。

今のところ実生活で使う機会がないので、なかなか身につかないところもありますが、勉強を頑張って、いつか韓国旅行に行つてぜひ実践してみたいです。また聖マリア病院に来院する研修生と少しでも会話できるようになればいいと思います。

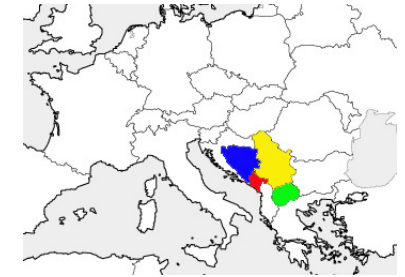


「南東欧地域 病院運営」コース研修員が来院

国際協力部 矢山進一



研修初日の開講式にて



南東欧諸国の位置
ボスニア・ヘルツェゴビナ(青)
モンテネグロ(赤)
セルビア(黄)
マケドニア(緑)



旧ユーゴ独立国のセルビア、モンテネグロ、マケドニア、ボスニア・ヘルツェゴビナにおいては、これまで復興支援として無償資金協力を通じた多くの医療機材整備支援が実施されてきました。しかし病院管理という概念が浸透しておらず、医療機材の維持管理費など重要なコストに対するプライオリティが低くつけられる傾向があり、結果としてせっかくの機材が有効活用されていないというのが現状です。このことからハード面の整備だけでなく、限られた資源を効果的に活用するための病院運営・財務管理が現在必要とされています。

そこでJICA(国際協力機構)は病院運営に必要な情報収集とその活用についてのノウハウ習得を目指した集団研修の実施を当院に委託し、平成18年より「南東欧地域 病院運営」コースが開始されました。今回の第2回研修は1月21日～2月15日の日程で実施されますが、去る1月19日に4カ国6名の研修員が無事に当院へ到着しました。

最初の1週間は東京での研修旅行で、翌週の1月28日から聖マリア病院での本格的な研修が始まりました。研修期間中は、講師を務めていただく方、病院見学に対応していただく方など、多くの職員の皆様の協力をいただくこととなります。お忙しいとは存じますが、どうか研修の趣旨をご理解のうえ最善の対応を心がけていただければ幸いです。

また2月4日(月)には研修員と病院職員との文化交流会を開催予定しています。(詳細は下記参照)

今回の研修員は長身の方が多く、どこの訪問先でも驚かれます。見た目で圧倒されてしまいそうですが、実際に話してみると皆陽気で、親しみやすい性格の人ばかりです。国際協力・国際交流活動に関心をお持ちの方はぜひご参加ください。

文化交流会のご案内

日時:平成20年2月4日(月)18:00～

場所:マリアンハウス ラウンジ

参加を希望される方は、2月2日迄に国際協力部へご連絡をお願い致します。(内線2385、2386)



Dr. ミリヴォイェ (ボスニア・ヘルツェゴビナ)



Dr. シニシヤ (ボスニア・ヘルツェゴビナ)



Dr. ピリヤナ (マケドニア)



Ms. ニーナ (モンテネグロ)



Ms. サニーヤ (モンテネグロ)



Dr. スロポダン (セルビア)

今月の動き

【受入】

・2月21日(木)～3月1日(土)
韓国カトリック医療協会第2グループ(技師)10名が臨床放射線室、臨床検査室、薬剤科、栄養指導管理室にて見学研修

【派遣】

・2月17日(日)～3月8日(土)
杉本孝生:ベトナム・ホアビン省保健医療サービス強化プロジェクトへ短期専門家として派遣

【その他】

・1月13日(日)～17日(木)
浦部大策、高岡宣子(国際協力部)がインドネシア国タムリン病院グループ訪問
・2月11日(月)～2月19日(火)
稲熊容子、倉間彦、中山陽介(臨床研修医)と浦部大策が臨床研修医制度「国際保健コース」のラオス研修のため、ラオス国へ